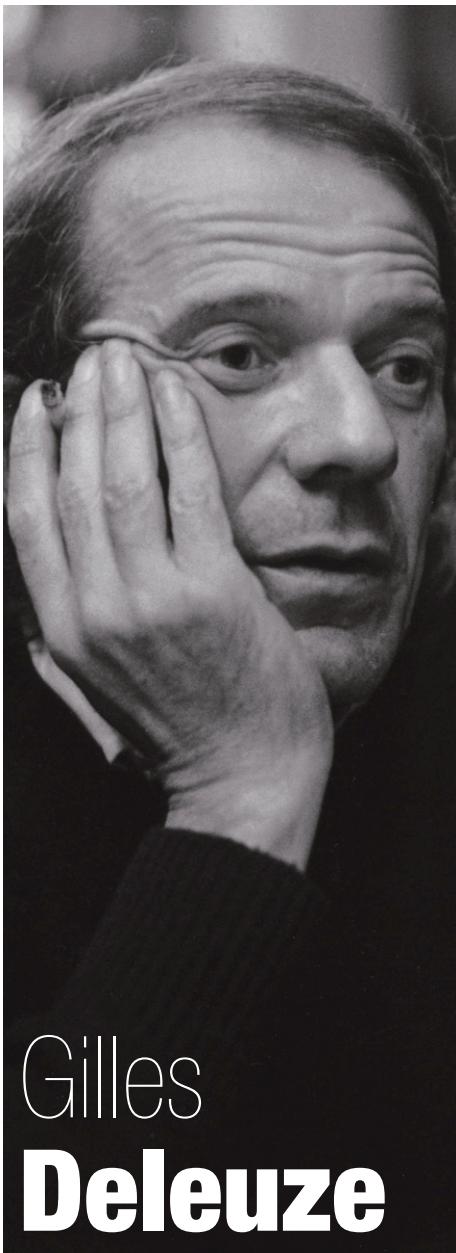


43年ぶりの新訳! ドゥルーズ初期の代表作! Le BERGSONISME

《叢書・ユニベルシタス1063》ジル・ドゥルーズ著 檜垣立哉/小林卓也訳

ベルクソニズム 〈新訳〉

四六判/180ページ/上製/定価(本体2,100円+税)/ISBN978-4-588-01063-7 C1310/2017年07月刊行/法政大学出版局



第五章○分化の運動としてのエラン・ヴィタール

訳者解説
原注

【著訳者紹介】

ジル・ドゥルーズ(Gilles Deleuze)
1925年生まれのフランスの哲学者。69年からパリ第八大学教授。哲学史を独自の仕方で読みかえるとともに、哲学本来のあり方を概念の創造に求め、構造主義以降の思想・芸術・文化に多大な影響を及ぼした。主な著書に、本書のほか『ニーチェと哲学』『ブルースとシニユ』『スピノザと表現の問題』『意味の論理学』『差異と反復』『感覚の論理』『シネマ1・2』『義理・ライプニッツとバロック』などがある。また精神分析家フェリックス・ガタリとの共著で『アンチ・オイティフス』『カフカ』『千のプラター』『哲学とは何か』を刊行。1995年死去。

【檜垣立哉(ヒガキ タツヤ)】

1964年生。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中途退学。大阪大学人間科学研究科教授。哲学・現代思想。著書に『瞬間と永遠』(岩波書店),『ヴィータ・テクニカ』(青土社),『生と権力の哲学』(ちくま新書),『日本哲学原論序説』(人文書院),『賭博/偶然の哲学』(河出書房新社)ほか。

【小林卓也(コバヤシ タクヤ)】

1981年生。大阪大学人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。大阪大学人間科学研究科助教。論文に「ドゥルーズ『意味の論理学』におけるエピクロス派解釈について」(『フランス哲学・思想研究』第17号), "The Aesthetics of Nature in Deleuze's Philosophy" (Philosophy Study, Vol. 3, No. 9) ほか。

※上記内容は本書刊行時のものです。

ベルクソニズム 〈新訳〉

()冊

帖合・番線

定価(本体2,100円+税)/四六判/上製/180ページ
ISBN978-4-588-01063-7 C1310

ご芳名

ご連絡